

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570400410		
法人名	社会福祉法人 萩市社会福祉事業団		
事業所名	萩市中津江認知症高齢者グループホーム なごみ		
所在地	山口県萩市大字椿東315-6		
自己評価作成日	平成24年8月21日	評価結果市町受理日	平成24年11月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年9月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食調理への移行に伴い、調理をする雰囲気やにおいや音など、準備から食事までを楽しんでもらえているように感じている。「その人らしさ」を大切に、「したい事・できる事」の発見につとめ、役割りを持って生き甲斐を持って生活できるよう支援している。調理や洗濯、掃除などでもできるだけ利用者と共に、個々の生活リズムを尊重したケアを行っている。また、趣味や余暇活動を通して“楽しみ”を見つけ、利用者・職員が日々笑顔で過ごせる環境・空間を提供している。外出支援では、利用者個々の希望に沿った外出ができるようつとめている。  
「家族・地域とのつながり」に重点を置き、家族参加型の行事(花見や夏祭り、忘年会など)を企画、実施している。面会や行事で来所された際は、利用者の状況説明や家族の要望などを聞き、情報の共有・ケアの向上に常時つとめている。また、地域の行事(季節のお祭りなど)へも積極的に参加し、定期的に地域との交流をはかっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員からの提案を活かして、配食の利用を8月より三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者は食事の準備や下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にされ、同じ食卓でゆっくりと会話をしながら食事をするを大切にされ、家族が参加される花見には弁当、夏まつりにはバイキング、忘年会には鍋物、季節の行事食など、食事を楽しむことができる支援をしておられます。散歩や買い物、花見、離人形見学、演劇、遊覧船の乗船、ドライブ(津和野稲荷神社、秋芳洞等)に出かけたり、希望にそって個別の外出支援にも取り組まれています。外部研修や資格取得についての情報を提供され、希望や経験に応じて受講の機会を提供しておられます。内部研修は年間計画を作成され、ターミナル、事故防止、ケアプラン作成、緊急時の対応、AEDの使用訓練、意識不明、骨折、誤嚥等の研修を実施しておられ、働きながら知識や技術を学べるように取り組まれています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めには、全体会議にて事業計画(理念)を全職員に周知している。また、理念を玄関に掲示し、意識付けするようにしている。全体会議やユニット会議を通じて、具体的にケアとして繋げていけるようにカンファレンスを行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、年度初めの全体会議や各ユニット会議で全職員で確認し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺地域との交流は少ないが、散歩での会話や地域清掃活動(草取り)を行っている。また、近隣地区の盆踊り大会へ参加するなど、地域住民と交流する機会を積極的に持つようにしている。利用者一人ひとりが住みなれた地域へ買い物や外出等を行っている。	地域の清掃活動への参加、散歩時の挨拶、市の七夕まつりの飾付けに参加して利用者で見学に行っている。ボランティア(生け花、三味線)の来訪や保育園児との交流、看護学生の受け入れなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や来客者からの認知症に関する相談等には、適宜助言等行っているが、地域への働きかけは少ない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を全職員に配布し、各自記入してもらっている。職員の思いや取り組みを管理者がまとめ、ケアに対して見直す機会としている。	全体会議で自己評価の説明をして、自己評価表を全職員に配布し、記入して、話し合いまとめている。自己評価をすることで評価の意義や項目の理解ができ、ケアの振り返りとなっている。AEDの使用訓練の実施など、評価を活かしての具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族(3組)、民生委員、包括支援センター、在宅介護支援センター、消防分団員、グループホーム主任・管理者、施設管理者のメンバーで2ヶ月に1度開催している。広報誌を通じての活動報告や、事故報告など意見交換を行っている。	2ヶ月に1回開催し、近況報告、活動報告、事故報告、外部評価について等の話し合いを行い、家族から避難訓練参加等について意見が出され検討をするなど、サービス向上に活かす取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには、運営推進会議に参加してもらい、情報交換や相談等行っている。虐待ケースでは、高齢福祉課や地域包括支援センターと協働している。	担当課とは書類提出等で出向いたり、電話で相談や情報交換をしている。地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、困難事例の相談や情報交換するなど、協力関係を築くよう取り組んでいる、	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、全体会議内で研修を行っている。身体拘束廃止に取り組み、現在も身体拘束は行っていない。玄関の施錠はしておらず(夜間帯除く)、外出やユニット間での移動が、自由かつ安全に出来るよう、見守り・声掛けを行っている。	マニュアルがあり、年1回研修を実施し、職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出を察知した場合には一緒に出かけたり、声かけの工夫をして、安全に過ごせるよう支援をしている。スピーチロックについては管理者が指導したり、職員間で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、全体会議内で研修を行っている。職員による虐待になりうるケースはないか、職員間で話す機会を持ちながら、抑制・拘束のないケアに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者も入所されている。制度に対する知識を全職員が持てるように所内研修を実施している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っているが、説明事項も多く、利用者・家族等からの不安や疑問には、適宜電話や訪問などして説明を行っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、苦情目安箱を設置し、意見を出してもらえるような環境作りに努めている。面会の際には生活上の要望などを直接伺うようにしている。遠方の家族については、メールで交信するなど情報交換を行っている。苦情があった場合も、第三者委員会で報告し助言を求めている。	苦情目安箱を設置し、苦情相談窓口、外部苦情申立て機関を明示し、苦情処理手続きを定め、契約時に説明している。運営推進会議時、家族交流会、面会時に意見、要望を聞く他、遠方の家族にはメールや電話で意見、要望を聞いている。苦情に対して事業所の苦情解決委員会で対応を検討する他、法人の第三者委員の助言を受けるなど、出た意見や要望等を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議・ユニット会議を通じて、職員からの意見を求めるなどして、施設運営に反映している。	月1回の全体会議、ユニット会議、日常のコミュニケーションの中で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。職員から事業所での食事づくりについて提案があり、食事を楽しむ支援に繋げているほか、家族とに交流行事等での職員体制など、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2ユニットで常勤15名を配置している。外出支援や家族との交流行事など、職員体制を整える必要がある際には、勤務変更を行うなどしながら対応するようにしている。有給休暇についても、出来るだけ希望に合わせて取得できるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や経験度に応じて、外部研修への参加や資格取得を目指せるように、職員登録システムを構築するなど支援している。施設内においても、所内研修を職員間で担当するなど、知識や技術のスキルアップにつながるよう支援している。	外部研修は情報を提供し、希望や経験に応じて参加の機会を提供している。受講後には復命をし、資料を閲覧している。内部研修は年間計画を作成し、月1回の全体会議でターミナル、事故防止、緊急時の対応等の研修を実施している。新人研修は先輩職員が指導するなど、働きながら学べるように支援している。資格取得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡協議会へ加入し、研修会に参加している。また、萩・長門・下関地区のブロック研修会にも積極的に参加し、知識の習得や情報交換を行うようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの要望には、できる限り早期に解決できるよう支援している。関連機関より情報収集しながら、在宅での様子を把握する為、自宅に訪問するなど、関係性を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に、入居時には本人や家族から、これまでの生活歴や最近の様子を伺い、今後の支援に役立てている。また毎月、利用者本人の状況を写真などで報告し、家族との関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実情や要望を聞く中で、必要に応じて、他施設の情報や、居室情報を確認し提供するようにしている。情報提供した際には、担当ケアマネと連絡を取り、情報を共有している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の「出来る事」「出来ない事」をしっかりと把握し、同じ時間を共有しながら、コミュニケーションを多く持つようにしている。利用者がその時にやりたいことをできる限り叶えられるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型の行事(花見や夏祭り、忘年会など)を企画し参加してもらうことで、関係が途切れないよう支援している。自室や居間での団欒など、気軽に来訪できる雰囲気づくりに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係や、馴染みの場所(自宅や美容院、スーパーや飲食店など)との関係性を継続できるよう、外出支援を積極的に行っている。人や場所との関わる機会を多く作るようにしている。	友人(昔の職場の同僚や俳句の仲間等)の来訪時に一緒に居室で過ごしたり、行きつけの理美容院の利用、手紙や年賀状、電話の支援をしている。家族の協力を得て自宅外泊、法事、外出、外食、地元の温泉に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を上手く保てるように、職員が間に入り、双方の不安・不満解消に努めているが、利用者個々の主張が強く、トラブルになることも多々ある。環境整備や役割など工夫するようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても、他施設や医療機関などへの訪問や情報提供など、必要に応じて行い関係を断ち切らない支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、希望や意向について把握できるよう努めるようにしている。「好きな事」「出来る事」「興味のある事」など一緒に関わる事で、その時々思いに添って支援するようにしている。	介護記録に状況、行動、言葉を記載し、日常の関わりの中で希望や意向の把握に努め、魚釣りを希望する利用者と一緒に魚釣りに行くなど、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向にそえるよう取り組んでいる。困難な場合は家族からの情報や表情、行動などで本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など把握し、趣味の継続や馴染みの場所への外出など出来るよう支援している。また、カンファレンスを通じて、情報を共有するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	余暇活動や趣味、調理や掃除など、「出来る事・やりたい事」は自然な形で行えるよう環境を整えている。できるだけ利用者に関わり、些細な変化を見逃さないように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議の中でカンファレンスを実施している。夜間での開催となり本人の出席が難しい為、日頃からの要望確認や受診状況等を確認しながら、介護計画書を作成している。	月1回カンファレンスを開催し、本人、家族、主治医等の関係者と話し合い、意見、要望を聞いて介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリングや見直しを行う他、本人、家族の要望や変化が生じた場合にはモニタリングに基づいて、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と介護記録を併用し実践している。事項の詳細や具体的な内容については、日々の記録としてパソコン内に記録している。口頭での申し送りと合わせ、連絡ノートを活用するなど、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に、外出支援には積極的に取り組んでいる。しかし、利用者の高齢化や重度化が進む中で、施設として、受入可能な範囲や看取りについてどこまで支援できるか検討していくことが課題である。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者個々の要望に応える為に、社協ボラコーディネーターを通じて、生花(毎週火曜)や三味線(月1回)のボランティアに在所してもらっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医による医療を継続して受診できるよう支援している。他科受診についても、利用者と家族の意向を伺いながら、必要に応じて家族の付き添いを依頼している。また、主治医から指導などあればその都度、家族等にも報告している。	本人、家族の同意を得て、協力医療機関による受診の他、以前からのかかりつけ医の受診を支援している。他科受診も含め、家族の協力も得ながら、事業所が受診支援している。受診結果等の情報を共有し、緊急の対応など適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はなく、日頃の様子はかかりつけ医に相談している。緊急の場合など併設のデイサービス看護師に相談し、適切な受診等ができるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も、担当医、看護師、リハスタッフ、地域連携室へ状態を確認するなど、医療機関との連携を密に取るようにしている。また、入院による負担やストレスを少しでも軽減できるよう、面会し談話する機会を作るようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したケースや終末期等、事業所として対応が困難な場合には早期に家族等と相談し、医療機関や介護保険施設等を検討するようにしている。本人・家族への十分な説明と理解、協力が課題かと思われる。	契約時に重度化した場合に事業所ができる対応について、他施設や医療機関への移設を含め説明している。重度化した場合にはできるだけ早い段階から本人、家族、主治医等と話し合い方針を共有して、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント部会において、事故防止・ヒヤリハットについては検討している。毎月の全体会議において、事故報告書の内容と防止策について話し合う機会を持っている。特に転倒リスクが高い方にはコールマットを活用し、事故防止に努めている。応急手当や初期対応、AEDの取扱などの研修について実施している。	ヒヤリハットや事故が発生した場合には、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、その日の職員で対応策を話し合い、翌朝の申し送り時に確認して、共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生に備えて、内部研修でAEDの使用訓練、意識不明、骨折、誤嚥、通報訓練を実施する他、全職員が心肺蘇生法を学び、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルあり。避難訓練を年2回(昼夜想定にて)実施しているが、地震や水害を想定した訓練は開催できていない。運営推進会議に、消防分団員の参加あり、地域との協力体制を整えている。今後、協働での避難訓練が実施できればと考えている。	マニュアルがあり、昼夜想定年2回の避難訓練や消火器使用訓練、通報訓練を実施している。運営推進会議で地域の人の参加を得るの避難訓練について話し合いをしているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇部会を中心に、接遇に対するアンケートや研修を行いながら、尊重した声掛け・言葉使いをするよう心掛けている。現場の中で、職員間で指摘し合いながら、常に意識しての接遇をするようにしている。	内部研修でプライバシーの研修を実施する他、接遇部会で接遇のアンケートやロールプレイング等の勉強会をして、一人ひとりの人格を尊重し、入浴時や排泄時など、日常のケアの中で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日や時間、飲み物やイベントでのメニュー、衣類やエプロンや茶碗・湯呑みの購入等、利用者が選択できる場面を少しでも多く作るようにしている。特に外出支援等には積極的に取り組んでいる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者とのコミュニケーションを多く持つようにして、どのように過ごしたいか確認しながら、利用者主体を心掛けて関わりを持つようにしている。利用者個々のペースは大切にしているものの、職員側の都合になってしまう場面もある為、職員間での声掛けが必要と感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマや毛染め、顔剃りなど、行き付けの美容院・理髪店に行き、馴染みの関係性が継続できるようにしている。化粧品や衣類の購入時には、一緒に外出し、自分の好みの物を購入してもらうなど、その人に合った「おしゃれ」が出来るように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食調理への移行に伴い、一緒に調理を行うことは出来ていないのが現状だが、食事の準備や片付けなど出来る所はやってもらっている。調理をする雰囲気やにおいや音など、準備から食事までを楽しんでもらえているように感じている。	配食の利用を、8月より三食とも事業所で調理することに取り組んでいる。利用者の好みを聞いて献立を立て、利用者は下ごしらえ、下膳、食器洗いなど出来ることを職員と一緒にしている。同じ食卓でゆっくりと会話をしながら食事をするを大切に、誕生日食、季節の行事食、家族参加の行事の時には、花見弁当、夏まつりにはバイキング、忘年会では鍋物を楽しむなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については、「日々の記録」にて記入し、健康管理を行っている。利用者ごとに、一日のトータル摂取量を記入するようにしており、水分が不足しないように注意している。暑い時期、こまめに水分補給するよう促している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	適宜、歯科受診も行いながら、口腔ケアに努めている。毎食後の口腔ケアを促し、必要に応じて見守りや介助を行い、夜間は洗浄剤にて義歯洗浄を行なっている。歯ブラシやコップについても、週1回消毒液にて洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行いながら、可能な限りトイレでの排泄が継続出来るよう促している。ポータブルトイレと併用している利用者もいる。	排泄状況を介護記録に記載して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便促す為に、起床時の冷水飲用や入浴時の腹部マッサージ、おやつでは牛乳やヨーグルトやバナナジュースなど工夫して摂取してもらっている。個人的に牛乳を毎日飲用している利用者もいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員側の都合で入浴の声掛けしている部分もあり、個々に合わせたタイミングでの入浴が行えていない事もある。バスクリンや柑橘類を入れたり、浴室内で歌を歌うなど、楽しめるように工夫はしている。近くの温泉に行くこともある。	入浴は10時から11時と13時30分から15時頃までとなっている。入浴剤を入れたり、CDで好きな歌を聞きながらや歌を唄いながらなど、一人ひとりの希望にそって、ゆっくりと入浴できる支援をしている。入浴したくない場合には、時間をずらしたり、声かけの工夫をするなどしている。清拭やシャワー浴の対応もしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを大切にしながらも、体調に応じて休息を促すなどの声掛けを行なっている。居間での畳や、廊下での椅子やソファなど、休息できる場所を多く設けている。生活習慣や健康状態に配慮する以外にも、季節に合わせて寝具の調整なども行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテ内にてすぐに確認できるようにしている。翌日の内服薬は、前日夜勤者がセットするようにしているので、利用者個々の服薬内容については、しっかり把握するように心掛けている。服薬管理は飲み忘れや誤薬が無いよう常に意識して管理していく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ベランダや中庭での花や野菜作り、畑の草取り、生け花、塗り絵や貼り絵、花札・トランプなど、趣味を活かせる場を多く作るようにしている。ボランティアとして、生花、三味線の方に来訪してもらっている。また、地域の催しへ参加する等支援をしている。	折り紙などでの壁面作り、編み物、生け花、習字、俳句、雑巾縫い、アイロン掛け、五目並べ、抹茶、計算ドリル、風船バレー、野菜作り、草取り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗いなど、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、活躍できる場面づくりの支援や三味線演奏、誕生会、季節の行事など、気分転換、楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	調理業務の多忙から、日常的な外出支援の機会が少なくなっているのが現状である。その中でも、散歩やドライブ、買い物など外に出る機会を作り支援するようにしている。自宅や馴染みのある地域への外出や、距離を伸ばしての外出など計画し実行している。	散歩や買い物、図書館に行く他、むつみのふるさとまつり、花見(梅、椿、桜、紅葉等)、雛人形見学、物産展、法人の納涼祭、ドライブ(津和野稲荷神社、角島、秋芳洞等)、個別の外出(山口の寺や防府天満宮等)、家族の協力を得て、温泉、喫茶店、外食、外出など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者は、説明・了承してもらい、施設にて預かっているが、自己管理希望の利用者は、本人・家族同意にて、小遣い程度所持されている。外出の際など、希望時にはいつでも出金できるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎを行ったり、玄関にある公衆電話を使用できるようにしている。家人へ手紙を返送したり、年末には、家族や友人などへ年賀状を直筆で書いてもらい郵送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭やベランダにおいては、花や野菜など季節感が感じられ、居間や廊下では、季節に合った壁面作りや行事写真など構成するようにしている。食事前には、匂いや包丁の音などの生活感が溢れ食欲をそそる空間がある。また、利用者が快適に過ごせるように、季節に合わせて温度や湿度の管理を行っている。	玄関にはAEDが設置しており、季節の花、観葉植物を置いている。廊下は中庭を中心とした回廊式で、居場所となるように多くの椅子を配置している。壁には絵画、行事の写真、折り紙作品等が飾ってある。食卓からは調理の様子や匂いを感じることができる。畳の台やソファ、テレビがあり、水槽でめだかを飼育しており、利用者の人気者となっている。中庭の野菜を眺めたり、四季折々の景色を楽しむなど、思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においても、ソファ・テーブル・テレビ設置し、気の合う仲間同士で、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。また、廊下にも椅子を設置し、花や草木を眺められる場所があり、利用者が独りあるいは少人数で過ごせる空間を設けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族の希望に応じて、自宅で使い慣れた家具や小物など(タンスや仏壇、テレビ、コタツ、人形、椅子)を置いたり、畳を敷くことも可能。家族の写真やグループホームでの生活の写真などを、壁に貼っている利用者も居り、安心感の中で生活してもらえよう工夫している。	テレビ、タンス、コタツ、仏壇、人形等使い慣れた物を持ち込み、家族の写真、行事の写真、作成した動物のパズルや俳句の短冊などを飾り、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レク材など「見える収納」をし、利用者自らが選択できるように工夫している。歩行が不安定な利用者は、歩行器を使用したり、排泄が不安な利用者はポータブルトイレを使用するなど、状態に合わせて福祉用具を活用している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

作成日：平成 24年 11月 26日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	○近隣地域との関係性について ・近隣地域においては、散歩の際に会話をしたり、清掃活動(草取り)や夏祭りへの参加などを行い、少しでも関わりを多く持てるようにしているが、だが、県営住宅内の一角という環境もあり、関係性が希薄なのが現状である。災害等が発生した場合、近隣地域の協力を得るまでの関係性は構築出来ていない。	○近隣地域との協力体制の構築 ・近隣地域との関係性を良好に保つことで、災害が発生した場合、地域と事業所が互いに協力出来るような体制を構築する。また、地域からの要望を受容したり、事業所としての情報を発信するなど、日常的に交流を行う環境を整える。	・散歩に際の会話や清掃活動、夏祭りへの参加は継続しながら、近隣地域との対話が長く持てるようにしていきたい。また、地域での防災訓練に参加したり、グループホームの避難訓練へ参加してもらうなど協力体制を構築していきたい。	3年
2	5	○運営推進会議での議題について ・利用者・家族(3組)、民生委員、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、消防分団員、グループホーム主任・管理者、施設管理者のメンバーで2ヶ月に1度開催している。広報誌を通じての活動報告や、事故報告などの意見交換を行っているが、地域からの要望が少ないのが現状である。	○運営推進会議の充実を図る ・会議内での意見や情報交換を積極的に行い、それらを日頃の関わりに活かしながら、ケアの充実を図る。また、グループホームの現状、活動内容について、広報誌やホームページを通して、情報の発信を行う。	・運営推進会議を通じて、グループホームの困難事例や事故報告などの情報を提示し、意見交換を行うことで、会議を充実させたい。	3年
3	20	○家族が参加できる行事が少ない。 ・従来、家族参加の行事として『夏祭り』を年1回開催していた。家族が遠方に住んでいるという利用者が多く、面会もままならない状態の中で家族とのコミュニケーションを取るのは大変難しい。また、年に1回の行事では仕事の都合などで参加できない家族も多い。	○家族との関係性を継続する ・季節ごとに家族参加の行事を主催する。それらが定着する事で家族の参加が増え、コミュニケーションの場が増え、利用者と家族、職員(事業所)が一体となって生活を支えていく環境を作る。	・平成23年度より家族参加の行事を増やし促している。まだ参加数は少ないが、家族とのコミュニケーションの場としての役割は大きい。今後も継続して家族参加の行事を開催していきたい。	2年
4	34	○利用者の重度化への対応 ・当グループホームでは重度化への対応・体制が不十分。従来は、利用者の高齢化や身体・精神状態の悪化に伴う重度化には対応していなかったが、重度化しても入所継続を期待するが家族が多く、今後導入の必要性を感じている。	○重度化した場合に、家族・医療機関と協働できる環境をつくる。 ・重度化が著明な場合であっても、利用者にとって当グループホームでの生活が“その人らしさ”を最大限に引き出せる環境が整備できている。	・重度化への対応が実現できるよう(利用者や家族の希望、身体・精神状態、環境などを考慮した上で)段階的に整備を行う。人員配置等の見直し、人材確保などを行う。	3年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。